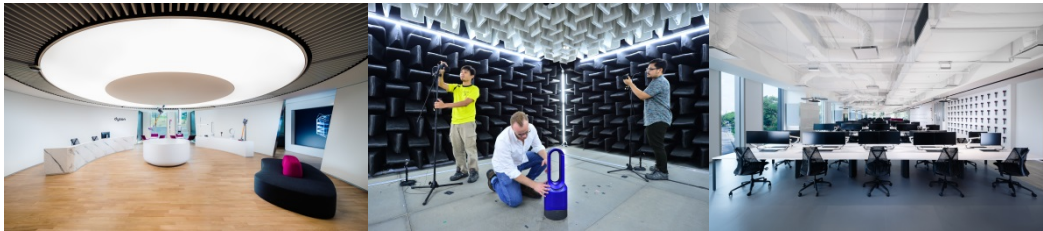


2017年2月13日

## ダイソン、シンガポールで未来への投資 SINGAPORE TECHNOLOGY CENTRE を新設

ダイソン創業者のジェームズ ダイソンが次に挑む他に類のない最先端の製造、  
ソフトウェア開発そしてロボット未来への投資



ジェームズ ダイソンは 2017 年 2 月 13 日（月）、ダイソン新シンガポール テクノロジーセンター（Singapore Technology Centre）をシンガポール経済産業省イスワラン（S Iswaran）大臣と共に開設セレモニーを行いました。

ダイソンはシンガポール テクノロジーセンターの新設および未来の研究開発に対し 3 億 3,000 万

ポンド（約 478 億円\*）を投資します。施設内の最新開発ラボは、最先端のハードウェアとソフトウェアの専門家と共に実現しました。今後 50%以上の成長をシンガポール拠点のエンジニアと共に目指す

予定です。ダイソンの新しいテクノロジーセンターは、シンガポールの新興企業コミュニティの中心地、シンガポール国立大学の隣に位置しています。本施設を拠点とするデザインエンジニア達は、未来に向けて新しいテクノロジーの開発に従事します。

ジェームズ ダイソンは次のようにコメントしています。「私たちの野心的な技術革新を実現するためにシンガポールへ投資を行うということは、決して偶然のことではありません。

ここでは世界でも有能

かつ優秀な人材が人工知能(AI)や、機能学習、ロボット工学、流体力学、ヴィジョンシステムによる

ハードウェア、電気工学そして、ソフトウェアの融合による技術の開発を行っています。ダイソン製品はソフトウェアのアップデートを通じ、時間の経過と共によりよい製品機能を提供し続けます。またソフトウェアのアップデート共に使用環境に応じたよりよい製品機能を実現します。」

ダイソンは 毎週 700 万ポンド（約 10.1 億円）を研究開発に投資し、3,500 名のエンジニアと科学者を世界で抱えるグローバルテクノロジーカンパニーです。そしてシンガポールでは、1,100 名のエンジニアや科学者がサイエンスパークに位置するシンガポール テクノロジーセンターとウェストパークに位置する最先端のデジタルモーター製造拠点で研究開発に取り組んでいます。コネクティビティ技術、モーター、センサー、電気工学、ロボット工学、ナビゲーションシステム、ソフトウェアや空気清浄システムなど、様々で広範囲領域の優秀なエンジニアを常に求めています。

シンガポール経済開発庁長官の Dr. Beh Swan Gin (ベイ スワン ジン)は次のように述べています。「この度ダイソンが研究開発機能を拡張し、より専門的な研究開発をシンガポールで行うことを嬉しく思います。本拠点が AI 技術や機能学習プログラム、ソフトウェア開発な

ど未来のテクノロジーを生み出す場所になることを確信しています。そしてこれはシンガポールの若い人達、未来のエンジニアをめざす人達に新しい可能性を提案し、我々のイノベーション的経済の構築の実現をサポートしてくれるでしょう。」

コントロールタワー：

ダイソンは 1,300 万以上の製品を、500 以上のサプライヤーから供給される 40 億個以上の製造部品を用いて生産し世界 75 カ国で販売しています。その生産数は過去 4 年で倍以上となり、これから 4 年で現状の 2 倍となる予定です。シンガポール テクノロジーセンターに新設されたコントロールタワー内では、発生した事象への迅速な対応と供給すべくリアルタイムのサプライチェーン情報や物流データが映し出されています。

チーフ オペレーティング オフィサーのジム ローウェンは次のように述べています。「人々の購買行動の変化は、我々のサプライチェーンの流れにも変化を及ぼしてきました。ダイソン コントロールタワーは、全てのサプライチェーンシステムにつながっています。最新のテクノロジーを用いて、高品質な製品をお客様にオンタイムでお届けすべく、製品の品質や配送方法をリアルタイムに追跡しています。」

ウェストパーク：

シンガポール テクノロジーセンターは、特許取得のダイソン デジタル モーターを 2.6 秒/個で製造するウェストパークから 30 分ほどの距離に位置しています。シンガポールが誇る最先端の自動生産ラインは、高速の電気モーターを製造するために正確なロボット技術を採用しています。ダイソン デジタル モーター (DDM) V9 は現在 DDM の中でも最小のモーターで、毎分最大 11 万回転します。V9 の回転軸に取り付けられた羽根（インペラー）は 500 円玉サイズで、直径 27mm にもかかわらず毎秒 13L（リットル）の空気を送り出します。

## 【背景】

シンガポールにおけるダイソンの歩み：

- 2007 年: シンガポールのサイエンスパーク I に最初の開発施設が開設されました。当時は、英国本社でデザイン設計したアイデアを製品化するための、設計から製造までプロジェクトの移行をサポートするために小規模なエンジニアチームとして発足しました。
- 2009 年: シンガポール開発施設は、施設面積は 3,000 平米もの広さを誇るアレクサンドラテクノパークへと移転。それに伴い、必要な従業員数も 7 倍に増加しました。
- 2012 年 1 月: 正式に最新のモーター製造施設をウェストパークに開設しました。
- 2013 年: ウェストパークに 1 億シンガポールドル（約 79 億円）の追加投資を発表しました。
- 2015 年: ウェストパークに更なる 1 億シンガポールドル（約 79 億円）の投資を行い、これらの投資は、後にダイソン スーパーソニック ヘアードライヤーに採用された V9 モーターの製造ライン等の新設に用いられました。
- 2016 年: 累計 2000 万個ものダイソン デジタル モーターが 9 月までにウェストパークで製造され、12 月には更なる研究開発機能を拡張するため、シンガポール テクノロジーセンターへ移転。

- 2017年: シンガポール テクノロジーセンターを正式に開設。

#### 英国におけるエンジニア不足:

ジェームズ ダイソンは今後 5 年間に渡り、英国本社に 2017 年 9 月に開校予定のダイソン インスティテュート オブ テクノロジーに 1,500 万ポンド (約 21 億円\*) を投資することで、英国が抱える深刻なエンジニア不足の問題解決に取り組めます。英国では 2020 年までに 64 万名ものエンジニアが必要とされており、この状況はダイソンが掲げる野心的な採用活動へも影響を及ぼしています。本プログラムは、優秀かつ意欲的なエンジニア志望の学生に、従来の学士取得に変わる新たな選択肢を提供するものです。新設される学士内容は、学術教育と、3,000 名のダイソン エンジニアと一緒に製品開発に携わるという実地体験を合わせたものになる予定です。受講生には、全在学期間を通じ給与が支給されるため、経済的な負担を負うことなく高等教育を終えることができます。また、4 年間のプログラムを終了した際は、大学卒業生と同等の給与支給が見込まれています。

ジェームズ ダイソンは、次のように述べています。「英国のエンジニア不足は、ダイソンのさらなるテクノロジー開発や英国で研究開発された製品の輸出増の妨げになっています。そこで私たちは自分達自身でこの問題の解決に取り組むことにしました。新設する学士コースでは、学術的な理論の習得、実社会での就労と給与、それぞれの分野における専門家からの学びの場を提供します。」

#### ダイソンのグローバルにおける動き:

- 過去4年においてダイソンの収益は2倍以上に増え、テクノロジー研究開発への投資は3倍にも増加しています。現在英国のダイソン本社では2,500名が働き、2020年までにさらに3,000名のエンジニアの雇用をグローバルで目指しています。
- ダイソン製品は現在グローバル75か国で販売されています。
- 2016年9月、ダイソンは2億5,000万ポンド (約362億円) を投じて英国ウィルトシャーにテクノロジーキャンパス (研究開発センター) を開設しました。この新施設では、今後の製品開発に取り組むラボが129をも存在し、世界各地の大学40か所と協力しています。現在進行中の技術プロジェクトは200件以上、研究プログラムは50件以上あります。

※1ポンド=145円で換算しています。

※1シンガポールドル=79円で換算しています。